

[福岡市]

あとか
福岡県川崎町の“安宅”のお母さんたちが
福岡市で郷土料理を伝授！



柚子大福作りに挑戦するマチのお母さん

あとか
こじる
日、福岡市東区社領の「パンビの木箱」で、「安宅田舎料理交流会」を初めて開催した。「食育」に関心の高いマチの主婦と一緒に、「呉汁」や「自然薯の天ぷら」、「かしわ飯・栗ごはん」など9品を作った。

この日は小山田会長、坂本富士枝さん、重藤幸子さん、梅田豊子さん、寺田啓子さん、

川崎町農商観光課商工観光係
福岡県田川郡川崎町大字田原789-2
0947-72-3000

あまき
地区の女性
たちでつく
る「以心田心
協議会」加工
部（小山田ミ
ツエ会長、12
人）は12月16

片桐久美子さん、西山裕子さんの計7人が参加。料理に使った野菜はほとんどが川崎町・安宅産。「呉汁」とは、味噌仕立ての汁に、食べる直前にすりおろした青大豆を入れて食べる料理。自然薯の天ぷらはすりおろして油で揚げたもので、そのプリプリ感にマチのお母さんたちはみな驚いた。

食後の意見交換では、マチのお母さんから「季節ごとに田舎料理交流会をぜひ開催してほしい」との要望も。小山田会長は「マチの若いお母さんと交流できて楽しかった。安宅の郷土料理のよさを伝えていきたい。いい刺激になった」と語った。



柚子大福



料理上手の寺田啓子さん



田舎料理の質問に答える小山田会長

呉汁



かしわめし(左)と栗ごはん



自然薯揚げとゴボウ揚げ

出版室
おススメ!

東シナ海の宝島へ行こう！ 鹿児島・甕島

真冬の甕島で魚料理を味わいます。甕島特産のキビナゴをはじめ、身の締まった地魚料理の数々。お土産にはタカエビ(甘エビ)がおススメ。断崖が続く海岸線も見どころ。デスク平も同行します。



取材日：平成23年2月5日(土)～6日(日)泊2日
集合：5日6:45、JR博多駅筑紫口
解散：6日20:20、JR博多駅筑紫口
※九州新幹線、フェリーを利用
募集人員：20名(最小催行人員15名)、
事前申し込み必要
旅行代金：1人39,800円(大人小人同額)
協力：薩摩川内市観光協会

ツアークリエイション オアシス
(株式会社 ネオ倶楽部)
福岡県知事登録旅行業 第2-533号
全国旅行業正会員
092-282-5571(担当：戸田)
http://www.tour-oasis.com



[大分県宇佐市]

ざらい
東京銀座・坐来大分で、
宇佐市PRキャンペーン



宇佐の柚子胡椒の美味しさを伝える「生活工房とうがらし」の神谷慎恵さん



宇佐の食材を使った料理の数々

大分県宇佐市は10月16日、東京都中央区銀座の「坐来大分」で、「M i o c l u b コミュニケーション会 in 坐来大分」を開催した。大分を愛する首都圏の人々が集まる中、坐来大分の梅原総料理長は柚子胡椒作りを実演したり、宇佐の食材を使った料理を提供する一方、宇佐市の「生活工房とうがらし」の金丸佐佑子さんは宇佐の「食」について解説した。

宇佐市農政課農政係
大分県宇佐市大字上田1030-1
0978-32-1111(内線402)

あのムラ、このムラ

頑張ってます!

九州のムラに住む人々は今、「農林水産業」「食」「たび」「郷土の歴史」などを切り口にさまざまな試みに取り組んでいる。
わが古里を元気にする活動をレポートする。



[大分県]

「観光」と「農」の連携

九州グリーン・ツーリズムシンポジウム 2010in大分

九州グリーン・ツーリズムシンポジウム2010in大分(九州のムラたび応援団、NPO法人大分県グリーンツーリズム研究会主催)が2010年12月10日～11日、大分県内で開かれた。二日目のシンポジウムでは、「パカンス法の批准・制定」などを求める大会宣言が満場一致で採択された。九州各地から実践者約700人が参加。「観光と農の連携」をテーマに直面する課題や今後の可能性について議論を交わした。初日は県内5地区で分科会を行い、二日目は宇佐市安心院町でシンポジウムとスローフード大交流会を実施した。各分科会の討論内容(要旨)を報告する。
(報告：九州のムラへ行こう出版室)

【東部】 豊後高田市、国東市

組織
「グリーン・ツーリズム推進の
仕組み(組織)づくり」
～別府を変えたオンパクのひみつ～

観光カリスマ：鶴田浩一郎(NPO法人ハットウ・オンパク代表理事)
実践者代表：北島淳朗
(さいかい元気村協議会副会長)
地域代表：河野精一郎、田中友昭

お客様が地域でどう時間を使えるかを地域の人がよそ者の視点で探ることで活動の幅が広がる。大切なのは地元の「もの」をいかに掘り起こし、どうやって「体験」「交流」に仕上げていくか。よそ者、女性、行政のサポートは不可欠。民間と行政のパートナーシップが大切。

【北部】 宇佐市安心院町・院内町、杵築市山香町

教育旅行
「修学旅行とグリーンツーリズム」
～一生の思い出づくりの
コーディネートと安全管理～

観光カリスマ：宮田静一(NPO法人大分県グリーンツーリズム研究会会長)
実践者代表：下津公一郎(NPO法人エコ・リンク・アソシエーション代表理事)
地域代表：北部地区の「農林漁家民宿おかあさん100選」時枝仁子、矢野英子、中山ミヤ子、原美智子

九州新幹線全線開業で、近畿・中国地方からの予約が入り始めている。九州全体が連携し、心を合わせ、九州の「ありのままの魅力」を自発的にアピールしたい！修学旅行を受け入れるには、「非常時にどう対処・対応ができるか」も重要で、事務局体制の強化が求められている。

【西部】 日田市大山町・天瀬町、由布市庄内町

お宿
「旅館・ホテルと民泊の
連携のあり方」
～農産加工で人もうけ、金もうけ～

観光カリスマ：溝口薫平(株式会社玉の湯代表取締役会長)
実践者代表：藤瀬吉徳(農家民宿「具座」)
地域代表：平野武士、森義行、松浦吐四郎

1人から次の1人へと、顔の見える関係から地域活性の意識を植えつけることが大切。つながりあい、人脈を通じて、行政をも巻き込むことで、地域づくりへの挑戦は次の世代へ受け継がれる。一人一人が当事者となり、自分自身が「地域づくりを担う」という気持ちで求められている。

【中部】 竹田市、豊後大野市

行政
「ツーリズム振興と行政の役割」
～こうすれば地域が動く！
緑の下力持ち 行政の動き方～

観光カリスマ：首藤勝次(竹田市長)
実践者代表：飯干淳志(高千穂ムラたび活性化協議会事業管理者)
地域代表：甲斐広見

地域の知恵、潜在能力を行政がどうコーディネートして市町村の政策に生かせるか。地域の良さを誇り実践者が自らの手で作り上げる過程において、行政がタイムリーに支援し、その環境を整えていくことが重要。行政自らが、地域の総合力を引き出すコーディネーターにならなくては。



今回は鹿児島県薩摩半島を主会場に行うことが報告された

【南部】 臼杵市野津町、佐伯市

食
「食でつながる観光と農」
～ムラの旨食が地域をおこす！
かあちゃんたちのツーリズム～

コーディネーター：養父信夫
(九州のムラたび応援団長)
実践者：本田節(ひまわり亭代表)、
鬼川直也(鬼が島菜園)
地域代表：橋本正恵、後藤慎太郎、長野豊、
浅利妙峰

新規利用客の開拓が急務。「体験」すれば魅力は発信できる。「感性」に訴える観光、本物体験、お客様との心と心のふれあいが必要。さらに飛躍するためには、連携したまちづくりや広域観光圏の取組、農村の社会的起業家の育成をはじめ、都市と地域の繋ぎ役、組織も不可欠。



シンポジウムでの議論に耳を傾ける参加者



美味しい料理が並んだスローフード大交流会＝大分県宇佐市安心院町